

こすもスマイル 14号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和7年6月

～認定看護師のあいさつ～



梅雨に入り、花のように色とりどりの傘が街に開きました。おしゃれだけではなく便利な機能付きなど、お気に入りの傘を探すのが楽しい季節です。お気に入りの傘をさして、愛犬との散歩を楽しみたいです。

今回は、「口から食べる」を支えるために、摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割の一つである、オーラルフレイル予防について紹介します。

食事は、生きるために必要なばかりでなく、日常の大きな楽しみでもあり、生活の質を考えるうえでとても重要となります。近年問題となっているオーラルフレイルは、フレイルやサルコペニア、低栄養につながり、要介護認定や死

亡のリスクを高める原因となります。

「オーラルフレイル」とは、体の衰え（フレイル）の一つとなります。

「オーラル＝口」の「フレイル＝虚弱」という意味で、口腔機能のささいな衰えにより、食べたり話したりすることが上手いかなくなり、食事の偏りなど口の衰えが見られます。オーラルフレイルは、健康と機能障害の中間の状態、可逆的（元の状態に戻ることができる）であることが特徴の一つです。早めに気づき、適切な対応をすることで、健康な状態に近づくことも可能です。

オーラルフレイルの始まりの特徴として、言葉がはっきりしない、お口が乾燥する、水分でむせる、食べこぼしがある、噛めない食べ物が増えるなどがあります。オーラルフレイルを予防するために、①お口の体操の実施、②バランスの良い食事をとる、③かかりつけ歯科医を持つことが大切です。お口の体操は、隙間時間でも簡単にできるので、お口の衰えを感じたら体操（イラストを参照）を行ってみてください。



入院患者さんの口腔機能を維持するために、口腔内環境を整え口から栄養が摂れるよう、医師・言語聴覚士・薬剤師・栄養士など多職種と共同し、「口から食べる」を支えていきます。

バランスの良い食事と適度な運動を行い、いつまでも健康なお口を保ち、夏を乗り越えましょう。

小林市立病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 田原 真美代

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



新 規 採 用 者 紹 介

糖尿病・内分泌内科 医師

かりや たけひこ
仮屋 毅彦

4月から糖尿病・内分泌内科で勤務する事になりました仮屋毅彦と申します。鹿児島出身で宮崎への勤務は初めてとなります。地域の皆様に安心してもらえるよう精一杯がんばりますので宜しくお願い申し上げます。

消化器外科・腫瘍外科 医師

むらかみ ゆういち
村上 祐一

4月から外科で勤務することになりました村上祐一と申します。出身は鹿児島です。小林の医療に少しでも貢献できるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

薬 剤 師

くど あやか
久土 綾香

鹿児島市内で働いていましたが、地元の小林市に帰ってきました。地域医療を支え、患者さんに寄り添える薬剤師を目指します。どうぞよろしくお願い致します。

看 護 師

やました のりこ
山下 徳子

4月から5階病棟に配属になりました。小林市出身です。地域の皆様の健康を支え、信頼される存在になれるように日々努力していきます。よろしくお願い致します。

看 護 師

かたち ななみ
片地 奈々美

私は、小林市出身で、都城市に勤めていましたが地元である小林市に戻りました。患者さんやご家族に寄り添った看護を提供し、優しい心と笑顔を絶やさず日々努力していけるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

看 護 師

かわの あみ
川野 愛海

今年度から3階病棟に配属になりました。患者さんにご家族に寄り添い、安心安全な看護を提供できるよう日々精進して参ります。明るく笑顔で頑張ります。よろしくお願い致します。

看 護 師

みやした りる
宮下 麗月

4月から3階病棟に配属になりました。都城出身で歌うことが大好きです。地域の皆さまが安心して暮らせるよう、笑顔で患者さん・ご家族に寄り添った看護を提供します。よろしくお願い致します。

看 護 師

しももと よしこ
志戸本 淑子

4月から4階病棟で勤務させて頂くことになりました。患者さんにご家族に寄り添った看護が提供できるよう、日々努力していきます。よろしくお願い致します。

看 護 師

ふくまる こうよう
福丸 幸頌

小林市立病院には、様々な認定看護師がいます。私もキャリアアップする為に、救急医療に特化した看護師を目指します。そして、地域医療に貢献し、質の高い看護を提供できるよう、日々自己研鑽に努めていきます。

臨床工学技士

じゅうくろぎ しょうた
重黒木 翔大

延岡市出身で、4月から臨床工学室に勤務しております。地元に近いこの地域で安心して医療を受けていただけるよう、責任を持って業務に励み、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。よろしくお願い致します。

理学療法士

やまぐち みう
山口 美羽

4月から小林市立病院で勤務させていただく事となりました。知識や技術など、多々至らない点がありますが、西諸地域の医療に貢献できるよう精進して参ります。よろしくお願い致します。

作業療法士

とどろき たける
轟木 健

4月から小林市立病院で勤務することになりました作業療法士の轟木と申します。一日も早く皆様からの信頼を得られるよう、精一杯頑張りたいと思います。これからよろしくお願い致します。

4月から小林市立病院の職員として勤務させて頂く事になりました。新卒として分からないことばかりですが、上司や周りの方々から多くのことを学びながら戦力になれるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

地域の皆様から信頼されるために丁寧な対応を心がけ、事務処理では間違いをなくすよう精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

『新人看護師教育プログラム』が始まりました。

令和7年度は6名の新規採用看護師が当院看護部の新しい仲間として入職しました。そのうちの2名は3月に看護師国家試験に合格した新人看護師です。集合研修を受講しその学びを看護実践に活かすため、毎日、先輩看護師と共に奮闘しています。

当院の「新人看護師教育プログラム」は認定看護管理者（看護部長）や医療安全管理者、感染管理、救急看護、緩和ケア、摂食・嚥下障害、がん化学療法、クリティカルケアの認定看護師が各々の専門分野で講義を行います。*BLSや**ストーマケアの講義では、必要な研修を受講した看護師が実践的な講義を行います。研修は7月まで定期的に行われ、西諸地域の医療機関に就職した新人看護師や新人理学療法士等も加わり、総勢16名が参加予定となっています。

研修終了後は、各自が自分の配属部署で先輩看護師達の指導を受け、患者さんに看護サービスを提供することになりますが、この研修で学んだことを活かしてそれぞれの看護の現場で活躍してくれることを願っています。

*BLS：Basic Life Support

心肺停止や呼吸停止に対する一次救命処置

**ストーマケア：ストーマとはギリシャ語で「口」を意味し、便や尿を排泄するためにお腹に造設した排泄口のことを指し、ストーマ装具の交換や排泄物の処理、皮膚の観察等を行うことをストーマケアという



看護部教育委員会委員長 森川 裕子

消化器外科・腫瘍外科紹介

当院消化器外科・腫瘍外科は、昨年度より鹿児島大学第一外科より医師派遣を一名増やして頂き、令和7年4月現在坪内事業管理者、徳田院長、島名、泊、村上の計5人体制で診療を行っています。鹿児島大学、宮崎大学、県立病院からも多くの研修医の先生が交代で外科研修に来られお手伝い頂いています。非常勤で消化器内科の河野先生には総胆管結石や閉塞性黄疸に対する内視鏡治療をして頂いています。多くの先生のご協力のもと、年間200件超の手術に加え、癌化学療法、内視鏡検査、外来診療と引き続き多忙な業務に追われる日々です。

手術は胃癌、大腸癌等の悪性腫瘍手術を主に、胆嚢結石、ヘルニア等の良性疾患、腹膜炎等の緊急手術を行っています。近年高次病院ではロボット手術が施行されていますが、ロボット手術には及ばないものの患者さんの負担を減らす腹腔鏡手術も増えてきました。

依然として内科医師不在のため呼吸器疾患、心疾患、その他救急疾患にも追われますが、宮崎大学救急科から引き続き二人の常勤医を派遣して頂き、外科診療に専念できる体制になりつつあります。当科に限らず病院全体の常勤医の高齢化が進む中、この先当院が西諸医療圏の中核病院としての役割を担っていくためには、どうしても更なる医師確保が必要です。現在の診療レベルの維持向上を図りつつ、若い先生にも魅力ある環境づくりも求められています。手術のため救急患者の受け入れをお断りするなど、市民の皆さんや近隣の先生方にご迷惑をおかけすることも多々あり、大変申し訳なく思っております。現在の状況をご理解頂き、今後ともご協力の程よろしくお願い致します。

消化器外科・腫瘍外科 島名 昭彦

訪問看護ステーション紹介

小林市立病院訪問看護ステーションは、令和6年7月1日に新設されました。看護師5名（管理者1名、緩和ケア認定看護師1名を含む）と事務職員1名で構成されています。

当院がかかりつけで医師が必要と判断した方、末期がんなどで自宅療養を必要とされる方を対象にご自宅を訪問し、医療的ケアや療養上の世話、24時間体制で電話相談や緊急時対応を行っています。

当ステーションの強みとして、小林市立病院の医師をはじめ、多職種と連携して迅速な対応が可能です。また、緩和ケア認定看護師を中心に、利用者さんの価値観やその人らしさを大切にしたい意思決定を支援し、状況に応じて身体的・社会的・精神的などあらゆる苦痛を和らげ、生活の質向上に努めています。住み慣れたご自宅で安心・安全に生活が送れるよう支援して参ります。

新設後、約1年が経過しようとしていますが、まだまだ周囲の関係機関の方々にご指導をいただきながら当ステーションの体制構築に向けて取り組んで参りますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

小林市立病院訪問看護ステーション管理者 海藏 章代



放射線室紹介

放射線室は4名の診療放射線技師が従事しており、各診療科と密に連携を取りつつ、診断・治療に用いる画像の提供や、各種放射線機器等の保守管理および放射線被ばく防止に関する業務を行っています。

また、近年進歩し続ける技術や多様化する専門性に対応した医療を提供できるよう日々研鑽し、各種専門認定技師の育成にも力を入れています。

◆認定資格

- ・超音波検査士（健診領域・腹部領域） 4名
- ・検診マンモグラフィー撮影認定技師 3名
- ・X線 CT 認定技師 2名
- ・第一種放射線取扱主任者 1名
- ・救急撮影認定技師 1名
- ・ICLS 認定インストラクター 1名
- ・臨床実習指導教員 1名
- ・災害支援認定診療放射線技師 1名
- ・放射線被ばく相談員 1名

◆高額医療機器の共同利用について

当院では医療機器の地域共同利用の観点から、院外からの放射線検査を積極的に受け付けています。どうぞご利用ください。

CT・MRI・マンモグラフィー・骨塩定量検査依頼は地域連携室までお問い合わせください。

※※※2025年3月からMRI装置を更新いたしました※※※

●今までよりも様々な検査に対応可能になりました

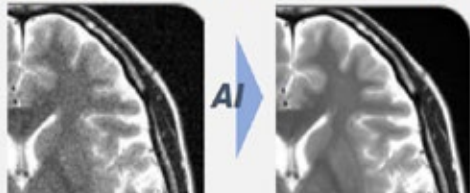
- ・脳神経領域、整形外科領域、血管領域、消化器・腹部領域など、全身にわたって高精細な画像が提供可能です。
- ・各診断領域別に最適な撮影法を豊富に搭載しているため様々な検査が可能です



新しいMRI装置の特長

当院は新しいAI技術とキヤノン独自の静音化技術を搭載した最新の1.5T MRI装置を導入しました。「きれいな画像」を「短い時間」かつ「静かな検査環境」で提供いたします。

■最新のAI技術によるノイズの少ない画像を提供



最新AI技術であるディープラーニングを用いることで非常に精度の高いノイズ除去を実現しました。これにより「きれいな画像」と「短い検査時間」の両立を実現しております。

ノイズが多い ノイズが少ない

資料提供：キヤノンメディカルシステムズ（株） ※掲載許可を得ています。

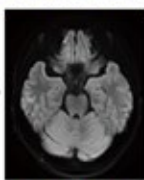
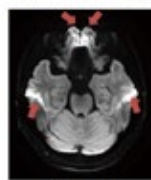
新たな診断価値を高めます

【Body DWIによる全身スクリーニング】 広範囲に広がる骨転移などのスクリーニングを行うことができます。



Diffusion

【DWIの歪み低減させる新技術を搭載】

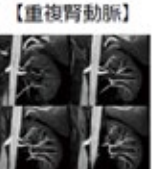


従来DWI RDC DWI

【Time-SLIP法による選択的血管描出】



【重複腎動脈】



T2WI

放射線技師 川野 真吾

『看護補助者』を募集しています！ 一緒に働いてみませんか？

看護補助者とは、病院などの医療機関で看護チームの一員として、看護師の指示のもと専門的な判断を必要としない補助業務を行う職種です。具体的な業務として、病室の環境整備、シーツ交換などの生活環境整備や食事、入浴、排泄介助などの日常生活援助、医療材料等の補充などの診療の補助があります。

当院看護部教育委員会では看護補助者の教育に力を入れており、毎年、5回シリーズで『看護補助者研修』を開催しています。研修は、現場で働く主任看護師や認定看護師、コメディカルスタッフが行い、実践的な内容になっています。また、各病棟には「看護補助者業務基準・手順書」を配置しており、未経験の方でも不安なく働けるように環境整備をおこなっています。日勤、夜勤の勤務形態があり、勤務時間や曜日など希望に合わせた働き方が可能です。福利厚生も充実しており、病院敷地内に保育所も併設しています。

患者さん一人ひとりに寄り添い、温かいサポートと一緒に提供できる方を求めています。興味のある方は、ぜひ、当院看護部にご連絡ください。お待ちしております。

看護部教育委員会委員長 森川 裕子



問い合わせ先：病院代表 0984-23-4711
担 当：看護部 武田

スタッフのひとこと

今年も約半分が過ぎようとしています。ゴールデンウィークも終わり、梅雨に入るこの時期は、毎年憂鬱な気分になりがちです。この時期を乗り切るために私が心がけているのが、適度に身体を動かすこと。週に3～4日程度、ジョギングやストレッチで汗を流しています。

「きつい時は休んで、4日以上続けて休まないこと」をルールに長く続けています。

みなさんも気分転換に運動してみてもいいいかがですか？



医師事務作業補助者 嶺石 利菜

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp